

早稲田都市計画フォーラム FORUM NEWS

Vol.10
1996.9.12

早稲田大学まちづくりシンポジウム1996開催 96.7.6~7

■早稲田大学まちづくりシンポジウムが7月6日(土)、7日(日)の両日開催された。このシンポジウムは毎年1回行われ、今年で4回目を迎えている。昨年からは稲門出身の市長を招いての「早稲田メイヤーズ会議」が開催され、地方自治の問題についての活発な議論が展開されている。まちづくりの輪が毎年着実に広がりつつある。

■1日目、7月6日(土)の第4回「公開シンポジウム」は、「今、社会が求める新しい職能、まちづくり家とは!」をメインテーマに、午前の部で基調講演、午後の部でパネルディスカッションを行った。

■現在日本のさまざまな都市・地域で個性あふれるまちづくりがすすめられているが、そこには必ず、まちづくりをコーディネートする「まちづくり家」がいる。

そのまちづくりの専門家のあるべき役割について、そしてそれを担保する制度、仕組みについて、育成について...立場は行政、民間、市民と異なるがどのようにすべきか。今社会が求める新しい職能としての「まちづくり家」像とは。これらについて活発な議論が期待された。

■2日目、7月7日(日)の第2回「早稲田メイヤーズ会議」は、「分散と交流時代の地域経営」をメインテーマに7月7日(日)、7人の校友市町長、市長経験者を招き、午前の部で基調鼎談、午後の部でパネルディスカッションを行った。会場の早稲田大学国際会議場には、朝方からの雨にもかかわらず

らず約300人の聴衆が詰めかけた。

■地方分権、首都機能移転、規制緩和など、「クニ」の枠組みづくりをめぐる日本は今、明治維新、戦後改革に次ぐ「第三の変革の時代」に直面している。こうしたなかで「地域」のあり方はどうなるのか。固有の資源と環境、独自の意志に基づいた主体的な都市づくり、地域づくりを進めようとしている自治体行政、地域市民の側は、どのような交流を通して自らの位置を定め、対応していくべきか。まちづくりの現場にいる各メイヤーの豊富な経験と発想に基づき、新たな視点と示唆の提示が期待された。



今年度の連続セミナーがスタートします

■テーブルディスカッション

「地区まちづくりのための市民参加手法」のお知らせ

早稲田大学理工学総合研究センター参加のまちづくり研究会の研究活動の一環として、テーブルディスカッション“地区まちづくりのための市民参加手法”を行います。数名のコアとなる論客を囲んで、自由な形でディスカッションを行っていきたくと考えています。皆さんの積極的なご参加をお待ちしています。(研究会の活動についてはP8参照)

●テーマ

今回は地区まちづくりのための市民参加手法をテーマとします。都市計画マスタープランをはじめとして、市街地像を共有することの重要性が様々なまちづくり局面で認識されています。それを技術としていかに確立していくにはどうしたらいいか。またそれをとりまく参加はどうあったらよいか。今回のディスカッションでは様々な論点を出しあい、それを共有して持ちかえること自体を目標とします。

●キーワード

地区レベル、木造密集市街地、市街地像、住環境整備、街なみ、地区計画、建築協定、都市計画マスタープラン、復興まちづくり、住民参加、ワークショップ、協議会方式、NPO、インターメディアリ、計画策定プロセス

●パネリスト:

卯月 盛夫 (早稲田大学専門学校教授・都市デザイン)
大戸 徹 (大戸まちづくり研究所)
大塚 博 (上尾市都市計画課)
佐藤 滋 (早稲田大学教授・都市計画)
佐谷 和江 (計画技術研究所)

●コーディネーター:

早田 宰 (早稲田大学講師・都市計画)

●日 時: 9月28日(土) 1:30~5:00

●場 所: 早稲田大学理工学部キャンパス
55号館S棟2F第3会議室

●主 催: 早稲田大学理工学総合研究センター
参加のまちづくり研究会

●共 催: 早稲田都市計画フォーラム
(連続セミナー第13回)

●参加費: 資料代1000円(学生無料)懇親会2000円
参加費は当日徴収

●問合せ: 早稲田大学建築学科佐藤研究室
(担当 饗庭(あいば))

E-mail 696c5011@cfi.waseda.ac.jp

TEL 03-5286-3139 FAX 03-3205-2897

■今後の連続セミナー開催予定

10月19日「行政まちづくりの職能」(仮題)

11月 9日「土木とシビックデザインⅡ」(仮題)

12月 7日「参加型まちづくりとしての再開発Ⅲ」(仮題)
—地域おこしとしての再開発—

1月18日「都市型集合住宅の更新を考えるⅡ」(仮題)